



善知安方忠義傳 第三輯二

13
1305
15



13
1305
15

善和安方忠義傳第三輯卷之二



東都 松亭金水編次

第十三回

奸夫媼婦痴情不迫は
苦肉の一計千代松を責る

粵小蟹原屋正禄が。渾家の深雪と老生管多る。武久助の先頃より互小
深き想ひを運びて。折と見合せ忍び今夜の度重るる。今も假初あら
ぬ縁しや。正禄と小世にわらむ。稚き女兒を一人誰か憚る方もあらず。か
のまゝ小なりあんと任せぬ。世の慣ひとわめては覚悟しあらず。嗟全愉し
情慾小眼瞑きて主人と小妨なりと必しめり。然るに正禄は更小是等の
こと知らぬ。今の深雪も私事に別。漢彌系車の扱ひも。よく意解せりの
す。心易し。都ていふことにも任し。或は説法念佛講ま。本堂

善和安方忠義傳第三輯卷之二

建立の世話人ふと憑きとて。元来信者の僻あるは同志の族の合を所と
 奔走を急故に朝より家に在る貝稀めて。苗守勝る成深雪等の僥倖小
 とて武久助を子會小引を物うらうひ。酒嗜しまで六あうねど三控三種の下
 酒を並へ互に酌つ酬つて。飲ひを竭し。何時り初くて且暮小咎むる人も
 きせしなり。樂むるはつらなり。嬉しういふ今も小弥勸世の時のありとも
 兩個が中に憚りの関の戸さで相語り。目とさるけと然もあうらび想ひ成
 捐て春の夜のちるるれ夢の迹なり。一明らもさあう夫あどの苦勞もあう人
 あう胸の瘡もあうま。心柄も淡様さ。吾うう沈き所為なり。し合息一
 あう煩惱の切りに断らるれ縁の縁纏まわひてさううに解て種れ成
 互の因果しとむえ。不年の圍て世間又は恍惚性質をこまや不迷を
 ともあう身が罪風も未移る木樹も動く心悟き人やし誠とと。然あうひひて

深きね。主人の渾家ハ矢張主人性名焦とて死ぬても。操奔るうとあうの身
 う。あうき考り且暮小下萌るる早蕨し。知るや知らむや。圍名君不摘さうひ
 が根しなり。夫う後る友州の艾ども現ね救枯し。蔓まつりて秋風小葉の
 萎むも土の底。必ひ深く潜まりて。空うちまきと降雪小あうぬりのう新端
 の棲小。様もあうひひし重く。初くあり果し兩個が身心籠うする時ハあう
 立退きつらならん。虎伏ささうさけつて竹を柱小茅の擔。月を明しとあう
 世少く間くあう。食や食らむの才しううて。恋も情も。果て終不
 涙の哀別難若し。ありてふ人甲斐あり。正禄刀祢もこの頃ハ先頃より由
 健小。ありとど日年のう。五年う二年の程し。あうハ長くもあう。む程
 う。こも成え。遠ら。跡ハ兩個が所帯も同帯。さ。彼人が世小あう。程ハ互小あう。の
 忍び。約心湯らぬ水湖。首尾をえ。合逢板の。湖の清水のそとあう。て。縁えぬ成

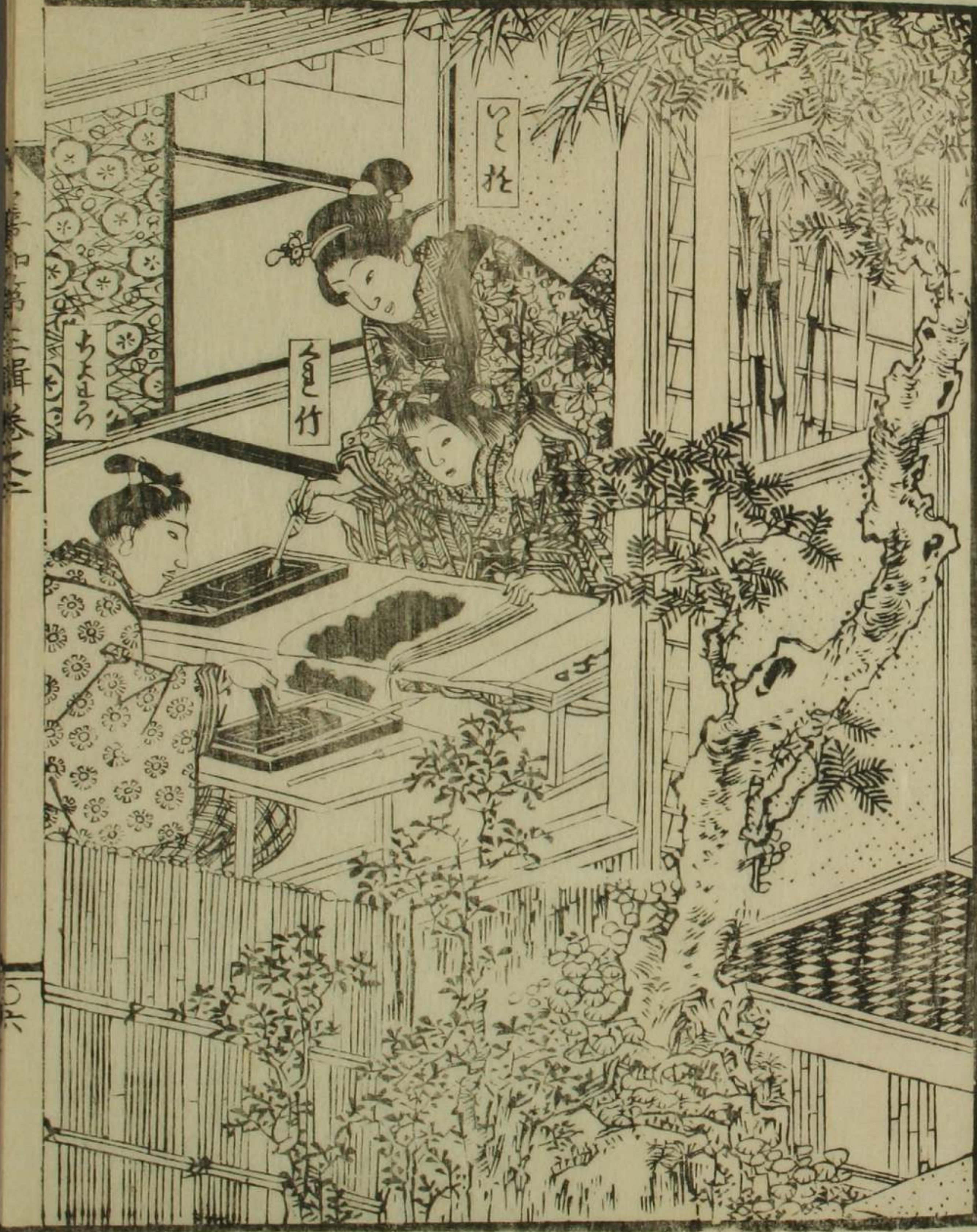
と、幼り愛す下心と、と、幼くして身帯の跡に嫉こもする等あまど。却て
 こゝろ吾們が、此の物けの遠くも。僥倖なりといひ入りあり。糸柱の縁て知
 是。處女も、その心雄く、あつて且、怜惻く、他の眼を、えて、糸の、と、成、曉る、を、
 りの性も、と、正禄と、別と、眩む、不、放、け、の、ま、と、吾們、が、と、告、身、不、禍、ひ、の、及、ぶ
 べ。お、ま、れ、左、ま、と、波、處、女、を、故、き、く、あ、成、遊、出、を、巧、夫、を、做、ひ、と、肝、要、を、
 肚、裡、不、計、較、て、も、糸、柱、の、且、暮、不、放、を、以、て、兩、個、小、仕、へ、陰、陽、を、行、ひ、は、あ、ら
 ざ、り、け、し、と、何、事、と、の、ひ、立、て、遊、掛、入、術、を、な、く、て、花、小、深、さ、の、胸、を、替、り、が、
 一、夜、正、禄、の、浦、平、等、と、菩提、院、の、事、小、就、き、所、の、莊、官、某、が、家、小、集、ひ、て、商、議
 の、あ、り、と、甲、夜、不、必、行、と、幸、ひ、の、り、て、武、久、助、の、深、さ、が、子、舍、小、密、し、く、ま、
 今、宵、の、帰、り、は、遅、く、人、界、甘、き、く、種、の、狭、い、必、ひ、を、語、ら、ん、あ、の、程、主、人、の
 吾、們、が、糸、少、く、疑、少、く、夜、も、晝、日、家、を、守、り、久、く、他、所、へ、出、る、は、い、か、顔

見るの、と、物、か、り、人、暇、な、け、と、鳥、と、隔、て、癖、を、成、捨、く、の、必、ひ、ぞ、せ、ら、ん、夫
 小、の、身、の、生、中、小、膽、膽、あ、つ、て、善、く、も、人、更、小、憂、う、は、顔、も、せ、ぬ、主、人、の、傍、に、誰
 とも、や、ら、ぬ、敵、が、お、小、え、え、人、の、什、麼、ま、と、つ、る、心、あ、る、絶、て、逢、ね、と、怨、襟
 とも、お、お、と、も、お、お、と、恨、一、お、お、武、久、助、が、顔、も、ち、成、り、わ、く、笑、心
 緩、ま、と、と、ど、い、所、給、主、人、が、世、小、あ、る、あ、の、心、の、傍、小、な、り、が、死、を、知、り、あ、ら、ず、此、の
 間、も、遠、ざ、う、は、の、を、忍、び、濟、む、彼、と、拒、漏、此、を、賺、し、て、一、夜、二、夜、の、敵、び、と、な、り、と、
 何、の、甲、斐、あ、ら、ん、水、梅、糸、柱、と、ある、處、女、の、怜、惻、さ、小、大、く、吾、們、が、情、念、由
 知、り、と、る、容、子、な、り、殊、小、主、人、が、幸、く、う、幼、り、屯、を、也、心、憎、く、あ、の、ま、あ、ら、ぬ、事
 ぐ、は、ら、り、倅、の、破、ま、と、生、ぜ、ん、と、夫、の、と、小、若、く、む、る、心、も、あ、ら、ぬ、今、の、ど、い、の、は、
 死、が、揚、糸、水、性、な、く、遠、き、を、慮、ら、ぬ、純、ま、と、い、つ、と、と、武、久、助、ら、ち、長
 次、現、小、の、身、が、必、慮、は、と、漢、士、の、あ、ら、く、及、ん、や、然、し、と、ま、が、吾、們、が、傍、に

あふ糸拵なり。渠いせの猫の尾の有てもきて日俸綱ね女おあるまは平
 生より。己の好くも合致せ。時よりくくく然襟く。さす故己を恨む。人
 等と噂するともわたり。然は主人が老より。疫神ゆて敵を兩人。と有るを
 告げ成。者さどともまう。この秘し。めん身主人お説いて。早く遠ざけらる。悔
 しも返りぬてあらん。この深きいとの。成常に憂る所なり。妻一ツの計
 較ありと。所謂若肉の秘計。輒くわが多し。小整り。と人のこと。顔
 まが久助が。膝を進めて若肉と。つる。條を頼り。宜く。ひま。顔
 うち成ま。深雪の微笑。この針策。めん身が心おあるなり。信玄如何
 ある。このありとも。吾儕とえ指へ。くく。証。なく。不告。維。と。ひく。久助
 冷笑。何をも。宜し。今更。めん。心を見。指。は。程。争。り。初。る。助。旁。と。せん。
 疑。ひ。沙。也。も。程。の。あり。夫。者。小。些。の。懸。念。多。く。頼。告。の。告。て。よ。と。漢。の。つ。人。の。

顔えうめ。然らば。異心と。起さぬ。との。知。文。を。共。く。何。や。らん。親。お。あ。ね
 ど。切。つ。極。めて。深。き。故。と。あ。ら。め。然。ら。ば。望。ま。不。任。せん。と。現。ひ。き。身。き。り。と。
 件。の。成。書。記。し。運。子。は。深。き。の。懐。不。収。めて。頼。り。多。く。低。め。今。の。人。と。縁。て
 有り。主人が。心。不。愛。ぬ。る。處。女。尋。常。の。純。言。り。て。退。け。ん。と。い。ひ。も。う。び。弁。を。強
 て。倣。ひ。る。禍。還。て。厄。不。及。む。と。お。放。て。針。策。と。考。ぐ。し。他。方。と。む。めん
 身。平。生。う。る。糸。拵。小。怨。襟。あ。は。は。の。の。の。の。の。渠。も。と。や。本。願。お。て。生。心。れ。著
 する。處。女。めん。身。が。ど。と。兒。青。春。と。さ。の。憎。し。と。思。ひ。ん。や。と。渠。の。千。代。松。と。源。く
 ち。て。諸。共。不。同。胞。の。ど。と。い。ひ。と。り。然。し。めん。身。今。より。して。千。代。松。不。恩。と。被
 せ。然。し。て。後。不。糸。拵。が。媒。憑。む。ら。と。う。千。代。松。争。り。辞。ま。ん。や。初。て。千。代
 松。糸。拵。小。云。な。う。と。い。ふ。と。れ。糸。拵。固。く。辞。む。あ。ら。と。千。代。松。と。嚴。く。責
 め。備。あ。の。孫。整。り。ぞ。い。吾。の。この。家。の。老。生。管。ち。り。世。の。朝。を。奈。何。お。せん。汝。を

左の冷少の学勉
の利の年女の業を
む



右の
奸夫の婦
毒計を
談は

事次第三車者之二

後理の立ち人。示くくと必決め。近き小立出入準備とあり。專に武久
 助の先頃より。千代松の心と執て。種々小物とるゆ。千代松も自然渠が
 志小羈さまで。始めの似せいで。親しく。二ある者小必人を又遣し。一時武
 久助の人もた斬小。千代松とち托き。縁より糸拵小。心あきどり主人
 の正祿一方あきく。愛染小より。あきく。護形氣怒ある。つひ出入て。若由
 主人の怒り小遭ひ。あきの浮沈とわりゆ。あきく。床とさ。怒り忍び。怒り
 殊累小舎。寂し。夫より容子を窺小。主人の強さ。終る。色香と愛染小あり
 で。孤を憐まむ。この。周て。似より。縁あり。誰小。配せん。近曾尊。秘
 身より。殺す。全く。情の。ぬ。明ら。今。跡。は
 吾悪る。心より。後悔。ま。どの。甲斐。若小。和主の。糸拵。同胞の
 親し。厚し。周て。吾。仍。小。必。想。の。程。を。若。死。回。報。を。得。て

あり。生。世の。鳩。恩。なり。あ。の。後。と。憑。ま。あ。ら。の。の。和。主。より。外。あり。さ
 ぬ。と。取。し。の。あり。さ。媒。と。憑。ま。り。倘。ら。の。の。整。い。さ。ぬ。必。出。の。緒
 も。絶。ん。と。吾。併。と。不。便。と。必。人。ぞ。あ。り。必。仕。課。せ。ぬ。と。切。小。頼。と。千。代
 松。の。只。管。呆。ま。と。何。と。の。人。言。系。も。知。を。俯。き。太。息。の。と。吻。て。あ。ま。武。久
 助。の。顔。を。覗。り。込。と。膝。す。り。あ。せ。回。答。と。せ。ぬ。小。辞。む。あ。り。倘。も。和。主。が
 辞。む。と。あ。り。他。小。媒。憑。む。た。人。も。な。く。と。さ。の。意。の。未。来。永。劫。懐。念。ま。條
 の。う。け。と。今。の。み。ど。く。無。と。死。あ。ん。の。近。き。あ。り。畢。竟。和。主。の。心。より。吾。を
 殺。す。小。弁。け。と。い。つ。あ。く。さ。の。可。ド。と。あ。り。和。主。を。殺。す。吾。も。死。し。共。に
 眞。主。へ。仇。人。の。と。切。親。と。千。代。松。刀。拵。と。り。挽。く。と。千。代。松。も。わ。ら。く
 沉。吟。小。眼。け。が。元。来。親。し。糸。拵。あり。故。と。不。放。の。他。の。胸。ま。つ。その。通。り
 して。ん。と。心。定。めて。夫。あ。ど。小。宣。へ。の。と。何。祥。ま。ん。一。と。り。糸。拵。小。語。り

ても則その玄小任せ逢て此方の心も若も彼人の心も所てその善きも隨
 かりんといふ残つて千代松の心ひの外ある糸花が。田舎小まつ重き荷を卸
 しては心地の。幸より武久助と云ねも折る爪弾く行ひ残つ
 下さへ廢ありしが。僕夫等へ表裏して心裡の慕ひ。知らずと
 物堅き糸花も六阿もすべ。まゝ味もするわん。吾う心
 痛り鈍りけりけりと独笑せらるる。臥房不入。既小羽の目
 小なりけと。千代松の昨夜の次第。武久助小解る。武久助の先輝
 ありぬ。と心中大お秘びて。糸花の所。突お道理の。然るに
 語らん。この家まで八人目懸く。硬直くぬ。吾日未より往
 くはす。醉狂樓の忍び。客間もわと。彼処小伴ひ心静小語らん。一
 き。今日未の頃。吾の前へ。死小後より一人かの酒坊へ来り。と云傳

てよ。い密れとことひ合。時の来る成候けり

第十四回

武久助酒樓小糸道と挑む
 計策小無どて還て彼と謀は

あり新派の醉狂樓の。一の酒樓。表の懸。舟板。見紙の松
 の源。桐小挂。青簾。と。色を争ひ。絲竹の音。晝夜。絶
 客を。待。處女。紅粉。と。紅の裳。と。好。小應
 一曲。奏。音律。凄々。切。波。見。小
 遠。雲。の。神。の。白。帆。の。酔。小。あ。う。う。傍。の。誰。余。に。獨。笑
 酒。と。人。ま。風。情。多。賢。原。の。老。生。管。武。久。助。を。か
 折。う。糸。花。の。人。ま。支。度。と。ふ。ま。右。左。初。れ。武。久。助
 と。家。の。處。女。の。憑。の。ひ。ば。と。う。り。處。女。の。近。の。君。の。何。と

索ねり人備武久君の四連ぬ。在さぬやう同くけらと取らり。死に進こ
 たり。ちや此処へ来て居り人あり。案内くものり。半由のまをせとまを
 此方へ来り人し手と把て。遙の奥へ誘ひゆ。間毎善美と掲り。或の
 花鳥人物の點付し。所あり。まの藤木の橋坐る。或の遣水のさう流
 是飛石傳ひを彼方此方へ往巡は折あり。彼誰れ合ふやた處安んぞ
 処を引開て。侍人の来りひ。備不桃へひひ。山般の今垂不進ら安んぞ
 ひ捐て。初し。まを武久助の身を女とて糸持。顔をもえはより。莞示
 と笑。侍り。死より身と昔の人。由ひ遣けん。未の頃との約束に備
 此方が遅く。序悪し。名あり。午の半に。来て今うく。侍身あり
 笑小千秋の思ひあり。頼此方へ来り。袖と曳とて糸持。ありと笑。ま
 合秋あり。集が對ひ坐をとり。四きえより。この家の表懸。よふ合りぬ

結構婀娜る。處女も多く見え。常く不性ひて。樂しきものあり。羨し
 現小世間の女子むらり。在小中變り。老あり。吾儕が家の内方。糸と掌
 るのひ。何不足あり。在ま。家と護は。女の勸め。然も。一年に一度。由
 活る。処へ来り。う。時。程近る。漢さ。小親。ま。えぬ。と宣
 ひき。とうち。笑む。武久助が。開。大方の。慣。良人の。心。不。同。り。の
 あ。人。吾。備。あり。才。と。渾。家。と。あ。ま。た。初。て。あ。ん。身。が。心。の。隨。え。ん。と。あ
 ら。系。雅。波。南。都。の。名。折。ひ。り。更。かり。安。雲。の。宮。内。周。防。る。錦。帶。橋。の
 遠。れ。由。厭。り。況。て。陸。奥。松。多。あり。の。壺。の。石。碑。信。電。の。う。ら。淋。し。も。い。ん
 折。の。十。有。の。菅。薦。七。有。の。君。成。森。き。せて。三。有。小。我。森。人。と。い。実。ある。大。和。歌
 忍。の。礼。と。惹。招。狭。布。の。細。布。む。合。り。た。必。ひ。と。察。り。の。秘。し。の。い。り。手
 と。り。引。倚。人。と。う。成。系。杜。睨。ふ。え。る。が。取。を。更。め。て。昨。日。十。代。松。不。宣。ひ。



僥倖。兇兇若くは勾引さすと弱足の御へ来しをり不扶けらるゝはりの
 中て。その中後こそ果ふと。いさむと喪小居て。儀衣既も掛るる身小つ
 ろ。抹背のわくしひせん。禮小懐するのこあふ。互の志研らるとは。
 然も。約と。固むるとも。解て。帯の横陳。喪の果はま。侯の。言
 と。武久助。案外。る。いふ。必と。理あり。再。何と。同。洩る。清水
 ろ。れど。めん。身。心。の。清。る。い。実。小。然。は。て。る。が。離。會。に。さ。刺。の。時。を
 移して。語。を。誰。か。ら。と。と。就。ま。る。の。は。と。め。人。に。常。云。小。の。耳。を。塞
 ぎ。冷。と。盜。む。の。難。の。り。信。流。と。う。い。の。深。く。世。の。性。の。稀。り。て。我
 せる。古。風。日。自。然。遺。り。て。人。の。實。朴。の。貴。る。る。に。り。の。あ。ら。う。开。の。魂。と。い。ふ。近。し
 づ。ふ。と。あ。と。と。父。母。小。後。と。便。る。死。と。う。り。飢。小。勝。め。る。の。折。り。吾。小
 と。の。死。と。任。し。る。が。昔。ひ。て。ん。と。人。わ。ん。小。已。の。喪。小。と。る。死。と。う。い。て。許。さ。ひ。の

捐らんと。然し。その。死。餓。死。小。至。ら。考。妣。草。葉。の。蔭。小。居。て。と。は。成。族。と
 必。ん。や。ま。と。世。の。人。も。孝。行。の。見。し。て。あ。と。成。祿。を。ん。や。今。お。ん。身。と。主。人。の
 憐。と。と。小。より。飢。小。も。餘。ま。ん。時。の。衣。服。と。死。小。纏。へ。ど。と。孝。行。の。と。小。の
 あ。ふ。ん。吾。方。と。二。世。の。契。を。成。り。て。信。玄。幽。小。暮。人。と。も。先。祖。の。祭。祀。に。び
 孝。の。道。小。も。懐。ふ。め。り。と。の。理。と。う。初。に。何。茶。辞。め。は。し。ら。ん。と。孝。行。を
 しま。と。傍。り。副。成。系。托。の。手。と。勝。小。措。り。傍。り。や。り。お。ん。身。心。を。推。量
 る。今。の。ひ。の。い。ま。虚。言。を。く。吾。儕。を。戲。謔。の。人。と。ん。吾。儕。推。き。と。の。折。り。父
 が。傍。小。居。て。物。の。本。の。端。と。も。些。の。ま。び。が。お。よ。を。夫。婦。の。人。倫。の。根。本。小。い。大。切
 な。り。と。洞。房。小。樂。一。戒。と。り。と。り。故。し。せ。む。遊。女。夜。祭。の。類。小。異。あり。然
 して。交。は。ふ。時。日。成。擇。心。の。欲。ま。る。ま。あ。く。甚。ん。と。聖。賢。の。子。と。爾。の。道
 と。や。と。喪。小。居。る。吾。儕。を。捕。へ。搖。奪。が。り。き。小。及。む。ん。と。う。の。人。情。情。さ。よ。

さは果敢るれ心むる。配違人て見東ありと嗜めらして少く退き。怒り
 むん身と戯嬉まんし。するあわねどこの矯矯さ成るに心中恍惚と。且
 の互小言葉りて。誓ひあぐり。此まに立別まて。幸言不佛造て。魂と入
 ざる比ひこの後。愛改あんと。怒りて。あつて。糸拵ら。微笑。開の雄
 士の方。あゝ。人女子の方。初たり。誓ひて。成忘るべ。然るが。言葉
 の。疵ひも。事理あ。び。吾侪が。心小願り。朝夕侍侍。て。渾家よ。と
 呼と。良人。冊き。喪の果。成。俟ん。て。嬉。り。わ。と。思。ふ。共。小。主。家。小。侍
 子。人。目。替。り。て。扱。り。ぬ。の。こ。う。人。の。言。小。深。き。の。君。と。深。く。語。ら。ひ。の。人。と。先
 結。り。う。べ。い。お。り。ど。も。備。然。は。て。の。り。り。も。せ。終。お。の。身。の。遺。ら。と。て。且。内。室
 の。憎。み。成。受。せ。お。り。て。も。あ。る。業。の。下。流。う。る。身。と。あ。る。人。の。性。未。だ。も。想。ひ
 まで。進。り。た。の。限。り。お。つ。り。見。い。ち。け。き。と。あ。り。て。う。づ。き。條。の。侍。ら。ね。ど。

既小妹背と突るう。今より後の良人ぞ。いふうて。か。あ。そ。と。悪。く。な。味
 ところのひそ。い。ま。と。て。武。久。助。中。に。物。い。は。せ。と。突。ひ。紛。ら。し。遠。く。怪。り。ぬ
 何人。と。さ。る。言。ふ。彼。い。さ。だ。假。令。一。時。の。銭。才。と。也。も。人。の。瑕。お。あ。り。て。い。の。り。の
 あ。い。く。穢。む。と。半。も。い。を。を。思。ふ。が。も。そ。と。程。の。て。吾。侪。も。初。たり。然。ち
 が。隠。ま。る。る。より。顕。ま。る。る。や。都。て。この。理。を。免。る。が。い。は。れ。ら。ち。子。も。奔
 せん。易。さ。ら。急。の。道。也。我。名。い。ま。さ。き。五。け。り。古。人。も。歎。く。言。葉。あり。任。意。お。ん
 此。為。潔。白。あり。と。も。主人。が。家。お。在。さ。ぬ。日。の。兩。個。潜。と。て。窓。や。り。お。物。が。て。る。も
 景。勢。を。誰。と。心。算。ぬ。い。わ。く。と。周。て。お。死。名。の。五。と。て。も。更。お。介。解。の。ある。と。
 初。の。吾。侪。も。十。お。く。八。九。の。怪。し。と。疑。み。あ。り。この。故。小。家。お。在。る。が。惜。し。成
 受。ん。と。と。思。は。し。惨。然。と。い。ひ。け。と。武。久。助。の。この。窓。棊。の。洩。る。と。大。お
 名。と。その。悪。名。成。消。さん。お。い。は。く。糸。拵。と。契。は。お。あ。り。と。い。ふ。う。ち。も。咬。き。

書知第三輯卷之二



むく雨



来りし

武久助系遊を
 伴ふ人
 上野
 奪は

誰ありて知る者ありて頼てその日暮近き武久助の間に寝ひ深き
 ころに三十兩の盤纏を密に取取らる。準備をきけるに糸柱のまゝ人知
 ば彼一巻をば腹紗に巻きて腹に緊く縛し著け。著掛の衣類は下を襦す
 袢たんとす。その相因と侍やどに初夜の頃武久助の家におと成誘ふやど小
 へ往く容おち。おの家へ出入りし連足と早めて退ける。畢竟あまより
 鬼も不到也。まゝ如何をば訴説うの法。後の件を聴くかゝらん

善知安方忠義傳第三輯卷之二終

